

地球惑星科学委員会
人材育成分科会高等教育検討小委員会
(第25期・第2回)

全国地球惑星系学科長・専攻長・会議 合同開催

議 事 録

1. 日 時 令和4年6月2日(木) 17:00~19:10

2. 会 場 遠隔会議

(以下敬称略)

委員会出席者：堀利栄(愛媛大学)、掛川武(東北大地学)、西弘嗣(福井県立)、関華奈子(東大地惑)、久家慶子(京都大)、佐々木晶(阪大)、大谷栄治(東北大)、小嶋智(岐阜大)、木村学(JAMSTEC)、佐藤 薫(東大)、山形俊男(JAMSTEC)、川口 慎介(JAMSTEC)、川幡穂高(早稲田大)、平田直(東大)、張 勁(富山大)、田近英一(東大地惑)、藤井良一(情報システム研究)

オブザーバー参加：[全国学科長・専攻長会議メンバー] 坂口有人(山口大)、神谷隆宏(金沢大学)、野沢智(城西大)、橋本義武(東京都市大)、三瓶良和(島根大)、中西正男(千葉大)、伴雅雄(山形大)、佐藤慎一(静岡大)、佐藤光雄(北大)、八木勇治(筑波大)、安東淳一(広島大)、石川尚人(富山大)、山田桂(信州大)、山田育穂(東大空間情報)、村山雅史(高知大農林海洋)、山崎剛(東北大地物)、松本浩典(大阪大)、梅田浩司(弘前大)、松田博貴(熊本大)、石渡正樹(北大)、藤田和彦(琉球大)、角替敏昭(筑波大)、鏑本武久(愛媛大)、隈元崇(岡山大)、青木一真

(富山大)、飯島慈裕(三重大)、平譯亨(総研大極域科学専攻)、日高洋(名古屋大学)

高橋幸弘(北大、JpGU)、春山成子(三重大・日本学術会議会員)

陪席：稲本祥吾(学術会議)

3. 議 題

(1) 高等教育における最近の動向(話題提供)

1-1. 地球科学系学生・院生就職先動向変化 (山口大学坂口有人氏が紹介)

日本地質学会が中心になって全国の地球科学系学部生、大学院学生の就職先などに関するアンケート調査を行い、その結果を報告。JABEE 認定大学や職種に偏りがあるなど問題が指摘された。山口大学の事例(カリキュラム例、コンソーシア形成、理学部のセンター形成、企業からの献金など)も紹介された。社会連携をうまく活用し教育の活性化に生かすことの重要性が議論された。

1-2. J-DESC や次世代火山研究者育成プログラム単位互換制度の取り組み(掛川連携会員が紹介)

日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)が取り組んできている単位互換プログラムに関して紹介。今後の単位互換可能授業や実習、J-DESC 未加盟大学の参加の可能性に関して議論された。次世代火山研究者育成プログラムの活動紹介があり、運営の仕方や

背景などに関して平田委員、伴氏から追加説明があった。このプログラム修了生のキャリアパス、運営の仕方などに関して議論された。

(2) 学科長・専攻長アンケート調査結果報告（西会員が紹介）

本会議に先立ち5月に Google Form を用いたアンケートを実施した結果が報告され、活発な議論が交わされた（以下）。

●組織改革に関する報告として地球科学系学科統合などによる一学科体制か工学部との合体による新組織化などの傾向が顕著であると指摘された。

●教員ポストに関して、多くの大学で新規採用が難しい状態であることが浮き彫りになった。組織改変などで地球科学系教員枠が一時的に増加した大学もある。単位互換制度を充実させて教育体制の補完を行う可能性に関して議論された。

●研究分野に関して、理系学科全体の学科専攻統合などが起こり地学の独自性は薄れてきているという結果もあった。

●学生の進路に関しても地球科学系の就職先が多く例年通りという結果が出た。

●各大学が取り組むアウトリーチ活動に関して、山口大のサイエンスワールドやサイエンスキャンプなどの紹介も行われた。山形大学の STEM 教育（小中出前授業）の例も紹介された。地球科学系に進学する学生の開拓や入学後の教育体制は、今後の大きな課題であることが指摘された。

●コロナ禍の研究教育に対する影響に関して報告があり、通常状態に戻りつつある様子が見受けられた。野外調査研究へのデメリットも膨大である。コロナを理由に退

学休学に関する調査の必要性が議論された。コロナによって生じた様々な問題や意見を記録し残すことの重要性が議論された。

●学術会議で検討すべき問題として小中高での地学教育（地学の必須化）やSTEAM教育などに関する問題が指摘された。社会ニーズなどに関して学術会議のガイドライン(大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 地球惑星科学分野 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140930-2.pdf>)を産業界に示し、意見を取り入れる、または、社会からバックアップしてもらうべきではという指摘もあった。社会との連携に関して地球科学系企業団体だけでなく土木分野団体なども視野に入れ、裾野を広げたらどうかという意見も出た。

●大学入試の「地学」出題の可否に関する意見交換もなされた。

議論の結果、次の会議などで意見交換してはという意見が出された。また必要に応じて追加アンケートも実施する事となった。今回の会議の情報や意見を記録として残すため、「学術の動向」に投稿し公表してはどうかとの提案がなされた。

4. 配布資料

資料1：地球科学系学生・院生就職先動向変化（事前送付）

資料2：J—DESC 単位互換制度（事前送付）

資料3：学科長・専攻長アンケート結果のまとめ（会議提示）